

## [第 29 回定時株主総会 主な質疑応答 (要旨)]

- Q1. ユニバーサルエンターテインメント社との関係について伺いたい。
- A1. ユニバーサルエンターテインメント社との提携の目的は、当社の IP および企画・プロデュース力と、ユニバーサルエンターテインメント社の開発力とを掛けあわせることで、新たな商品づくり、およびラインアップを拡充させることにあった。  
現在、当期中の同社製遊技機の販売に向け、引き続き、前向きに協議を重ねている。
- Q2. 『ソウル・オブ・セブンス』のサービス終了の経緯について教えて欲しい。
- A2. ソーシャルゲーム市場においてニッチであったガン・シューティングのジャンルに対し、新たなチャレンジとして『ソウル・オブ・セブンス』のサービスを開始した。  
しかしながら、潜在ユーザーは想定を下回り、株主様にご納得いただけるベンチマーク（収益等）を達成することができなかつたため、「選択と集中」という方針を推進するなかで、最終的にサービス終了を決定した。
- Q3. 当社の事業は多岐にわたり、専門性も必要となると思うが、人材の育成と人材の確保といった点はどのように考えているか、お伺いしたい。
- A3. 2017年3月期の従業員数については、連結が1,713名、個別が784名となっている。  
10年前と比較すると増加しており、これは主にクロスメディア事業とパチンコ・パチスロ事業の開発領域の人員増加によるものである。  
人材の確保と育成については、パチンコ・パチスロの流通は基本的に新卒を採用し、社員教育も一定の形が出来上がっていると考えている。一方、パチンコ・パチスロの開発やクロスメディア領域では、即戦力として中途採用を中心に必要な人材を確保してきたが、新卒採用により若い人材を確保し、当社独自の商品開発や企画が出来るように育成したいと考えている。
- Q4. 配当性向の今後の考え方について伺いたい。
- A4. 当社の配当に関する基本方針は、連結配当性向の基準として20%以上としており、今後も安定的な配当を目指している。引き続き、事業の拡大とともに配当金額の絶対値を上げていくことを検討したい。
- Q5. カジノ法案が成立したが、カジノに対する当社のスタンスを伺いたい。
- A5. カジノに関するオペレーションやハードに投資するのではなく、統合型リゾートにおいて当社グループに何が出来るのかという観点からアプローチしたい。  
他方で、カジノ誕生後のパチンコホール様のあるべき姿を考え、地域社会と共存し、地域の皆様に喜ばれるエンタテインメントを作り上げることが重要であると考えている。

- Q6. TVアニメ『アトム ザ・ビギニング』の放送状況と、今後の展開について伺いたい。
- A6. 多くの方々にご視聴いただいている。驚いたことに、50代から60代の方々の視聴が多い。  
なお、コミックスの販売は、放送前と比較しておよそ3倍で推移している。
- Q7. 今後のクロスメディア事業の方向性について、ヒーローコンテンツ以外の展開はあるか
- A7. ヒーローコンテンツ以外を扱わないというわけではないが、当社がヒーローコンテンツを主軸にしているのは、国内だけでなく海外のマーケットも視野に入れているため、また継続性が担保されやすいため、加えてゲームやフィギュア等の商品展開を企図しているためである。今後もヒーローコンテンツのリブートおよびシリーズ化を進め、認知度が高いコンテンツについてはスピンオフ展開などを推進し、さらなるビジネスの拡大に尽力する。
- Q8. 招集通知 P.34 の（4）注4および注5に、日本バリュー・インベスターズおよびダルトン・インベストメンツ・エルエルシーの実質所有株式数が確認できていない旨の記載がある。現在も確認が取れていないのか。
- A8. 両社ともにコンタクトが取れており、当社の事業計画等についてもご納得いただいている。その上で、現在、株式を保有いただいている状況である。